

阪南2区人工干潟におけるアマモ移植に協力しました

- 日 時 令和4年3月21日（月・祝）14:00～16:00
- 場 所 阪南2区（ちきりアイランド）人工干潟（岸和田市）
- 主 催 大阪海さくら
- 協 力 CIFER・コア、（公財）大阪府都市整備推進センター
- 協 賛 鴻池運輸(株)、センコー(株)
- 参加者数 40名（CIFER・コア（5名）、大阪海さくら、東亜建設工業(株)、あすなろ学童クラブ、一般の方々など）



阪南2区人工干潟において、大阪海さくら主催による第2回目のアマモ移植会が行われました。当日は天候に恵まれ、あすなろ学童クラブの子どもたちを含め、40名の参加がありました。

CIFER・コア事務局では、昨年の11月に大阪海さくらからアマモ育成キット10セットを購入し、初めてのアマモ苗（ポッド）育成に挑戦しました。

アマモ苗のポッドは、他団体・個人の方が育てられたものを集めると98個になり、大阪海さくら代表の那須さんによると、これまでの移植イベントと比べてかなり多くの苗が集まったとのことでした。

アマモ苗は土の入った生分解性の袋で育てられ、袋のまま海底に移植できるようになっています。アマモが育ちやすいような底質・水位を考慮し、苗は中仕切り堤近くのスandy地（満潮時にも比較的浅場となる場所）に移植されることになりました。参加者は、干潟の深場に足を取られながらも、熱心に植え付け作業を行っていました。今年は苗の数が多いため、比較的広範囲に植え付けることができました。

帰り際にはボードウォーク周辺の清掃活動を行い、ゴミ袋17個分のゴミを回収しました。

移植会にはABCテレビの取材クルーが同行しており、当日の様子は4月20日に放送される予定です。



▲CIFER・コア事務局で育てたアマモ苗（一部）



◀ 当日の参加者と取材クルー
▼ 移植に使われたアマモ苗（ポッド）。水槽で育てた方も。



移植のための準備作業。苗をポッドから出し、取出し用の紐を除く



◀▲ 移植作業の様子。子どもたちも多くの苗を植え付けていく。
▼ ボードウォークの清掃で回収されたゴミ

